

市民のみなさんからの アイデアを募集しています

鳥取市では、中心市街地の活性化に向けて「城下町鳥取の再生」「鳥取温泉の活用」「都心居住」の三つをキーワードに「中心市街地活性化基本計画」の見直しに取り組んでいます。その中で、貴重な武家屋敷の姿を残す「旧岡崎邸」や江戸時代からの商家である「池内邸」の保存が課題となっており、市としても保存に向けて検討を行っています。そのため、今年七月、「鳥取市歴史的建造物活用方策検討委員会」を設置し、これらの貴重な歴史的建造物をどのように保存・活用し、城下町鳥取のまちづくりを進めるのかについて検討をしていただくことにしました。委員会は、今まで四回検討を行い、十二月に検討内容について竹内市長へ報告する予定となっています。

市では、「旧岡崎邸」「池内邸」の活用方法などについて、みなさんの「意見・アイデア」を募集しています。

城下町鳥取の まちづくりに向けて

鳥取城を中心として城下町が造営されたのは、池田光政が因幡・伯耆三十二万石の太守となった元和三年（一六一七）のことです。寛永九年（一六三二）光政との国替えにより備前から移ってきた池田光仲以後、十二代にわたる鳥取池田家の時代に、城下町は大きく発展し、現在の中心

市街地の基礎となりました。

このような城下町としての歴史を今に伝える建造物の多くが、昭和十八年の鳥取大震災や昭和二十七年の鳥取大火、そして周辺の都市化によって失われています。現在残されている歴史的、文化的に貴重な建造物を保存し、歴史のまち鳥取市としての市民の誇り、郷土を大切にすることを

次世代に伝えることが大切だと考えます。

旧岡崎邸、池内邸を保存することは、城下町の情報発信の拠点、城下町鳥取の情報発信の拠点づくりにつながります。併せて、多くの市民に親しまれ、活用されることにより、鳥取独自の歴史・文化を育むとともに、地域の活性化へ効果的な役割が期待できます。

